令和４年度　自己評価結果表

幼保連携型認定こども園　わかば台こども園

１．わかば台こども園の教育保育重点目標

『遊びきる子ども』
「やりたい」から「もっと」が生まれる遊びの実践/地域に開かれた園づくり

２．本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画を基に設定した園評価の具体的な評価項目及び観点

① 「やりたい」「もっと」を促すための環境構成、援助を行う
② 「やりたい」「もっと」を伝え合う保育を展開する
③ 子育て支援事業を実施し、入所児の保護者のみならず、地域の未就園の保護者への子育て支援を行う

４．総合的な評価結果の概要

A	・「やりたい」から「もっと」が生まれる遊びの実践を重点目標にして、子どもの声（思い）を聴きとることから保育をスタートすることやクラスの中に話合いを確立することなど協同的活動を豊かにすることに努めた。子どもが主体的対話的に深く学んでいくために、①安心感や居場所を保障する環境を整えること、②夢中になることを保障する環境を整えることに着目して、環境構成や保育者の援助について注力した。子どもの思いや願いを汲み取り寄り添うことで「やりたい」から「もっと」を促すことが出来た。遊びの続きを支えることとして、振り返りや見通しが持てるような環境を整えていくことが課題となった。 ・子育て支援事業として『ひなたぼっこ』が地域に定着し利用者が増えてきた。コロナ感染症の条件緩和を受けて、地域の人との交流や地域資源の活用、地域行事への参加などを行い、内容の充実を図っていきたい。

３．評価項目の達成状況及び取組状況

	評価項目	結果	理由
1	「やりたい」「もっと」を促すための環境構成、援助を行う	B	・子どもの興味関心や発達に応じて、遊具の種類や量、大きさなどを工夫したり、自由に選択できることや可変性のあるものを考慮して、用具や素材を整えたりしたことで、繰り返し試したり工夫したりする経験を促すことが出来た。子ども達が関わりたくなるもの、利用しやすいもの、続けたくなるものなど、子どもの活動を保障していくよう環境を整えたことで、遊びの経験を広げることが出来た。遊びの続きを支える環境として、振り返りの機会をもつことや活動の足跡を残していくことをポイントにして改善を図る必要がある。 ・外部講師による指導機会を設け園内研修を行うことで、子どもの主体性を活かし応答的に環境を構成していくことや、幼児の発達を理解して指導計画を改善していくこと、遊びを支えるための保育者の援助の在り方などを学び深めることが出来た。 ・「わくわくルーム」や「わくわく工房」、「未満児用砂場」など目的に応じて（ごっこ遊び、工作、砂あそび）自由に利用できる場所を整備した。子ども達の「やりたい」「もっと」を促すため、時間や場所を保障するよう工夫したが、十分活用できなかった。
2	「やりたい」「もっと」を伝え合う保育を展開する	A	・少人数の担当制を取入れ１対１の関りを大切に気持ちに寄り添うことに努めた。一人一人の思いや考えを丁寧に受け止め、受容的、共感的、応答的な関わりを行うことで、安定した関係をつくることが出来、安心感から思いを伝える姿が多くなった。 ・子どもの「内面の読み取り」を意識して、言葉にならない表情やしぐさ、行動を受け止め、言葉にしたり言葉を補ったりすることで、子どもの欲求を満たすと共に発語を促すことが出来た。 ・活動の中に話し合う場面を多く取り入れることで、自分の思いを伝えることや相手の思いを聞く経験が増えた。考えを出し合って遊びを進めるなど伝え合う楽しさを味わうことが出来た。 ・生活経験を活かした「ごっこ遊び」を取入れることで、遊びに必要な言葉を使ったり言葉のやり取りを促したりすることが出来た。
3	子育て支援事業を実施し、入所児の保護者のみならず、地域の未就園の保護者への子育て支援を行う	A	・利用者の要望を受けて開催日を週２回に増やした。コロナ禍ではあったが利用者が多く、開催を楽しみにされている姿があり、「ひなたぼっこ」が安心して過ごせる場、つながる場となっている。若葉台地域の方が多いため、保育教諭との関係づくりだけではなく、利用者同士が関わりつながっていくよう仲立ちとなった。 ・子育ての悩みや相談に寄り添いながら情報発信に努めた。情報誌以外にも同じ悩みを持つ利用者同士で話し合う機会を設けた。子育てに孤独感や閉塞感を感じている方も多いが、話し合うことで「自分だけではない」「話すことで楽になった」と子育てのアドバイスを得る場にもなった。 ・地域子育てサークルへの支援を行う。（保育提供や手作り遊具の提供、遊具の貸し出しなど）参加者がほぼ同じであることから、地域の児童民生委員との連携を持ち、次年度は共催する内容を提案し計画していく。

項目３，４の評価結果の表示方　A：十分達成できている　B：達成できている　C：取り組んでいるが成果が十分でない　D：取り組みが不十分である